小学校・道徳の内容項目の解説

役割と責任の自覚

●小学校学習指導要領（平成20年３月）

４　主として集団や社会とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	----------	
中学年	----------	
高学年	(3) 身近な集団に進んで参加し，自分の役割を自覚し，協力して主体的に責任を　果たす。	役割と責任の自覚

●解説

関連の説　明	集団と個のかかわりの基本を述べたものであり，身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たす児童を育てようとする内容項目である。
全体的な理解	人間は社会的な存在であり，家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。それらにおける集団と個の関係は，集団の中で一人一人が尊重され生かされながら，主体的な参加と協力の下に集団全体が成り立ち，その向上が図られるものでなければならない。そのためには，集団に属する一人一人が，集団の活動に積極的に参加し，集団の意義に気付き，その中での自分の位置や役割を自覚して責任を果たすとともに，主体的に協力して全体の向上に役立とうとする態度をもつことが重要である。なかでも小学校段階では，集団のまとまりを意識し，集団への所属感を高めていくことができるようにすることが求められる。そのためにも，一緒に活動する楽しさや，集団の役に立つ喜びを感じとらせながら，主体的な活動への意欲を高めることが大切である。なお，このような態度は，第３・４学年の段階においても，例えば,進んでみんなのために働くことなどに関する指導を通じてはぐくまれている。
低学年	----------
中学年	----------
高学年	この段階においては，身近な集団をまとまりのあるものとしてとらえ，いくつかの集団に属しながら，それぞれの目標に合わせて活動することができることから，学校や地域の中でも，学級集団，児童会やクラブなどの異年齢集団，遊び仲間や各種少年団体などの身近な集団において,自分の立場や全体の動きを自覚できる活動に主体的,積極的に参加できるようにしていく必要がある。それらを通して自分の役割と責任を果たすとともに，成員相互のかかわりの大切さや，協力して目標を達成することのよさに気付くことができるよう指導することが大切である。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年８月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年３月）

４　主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め，役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	役割と責任の自覚